



# スクラム



滑川市立滑川中学校 教育相談係

## ○グループエンカウンターのご用命はありませんか？

修学旅行や宿泊学習、中間考査などが終了し、先生方もようやく「ほっ」と一息つけるようになったのではないのでしょうか。ここで学年や学級の生徒の様子について少し振り返る時間をとってください。

社会人によく言われる5月病と同じように、5、6月は「1回目の不登校の発生の時期」と言われています。それは、新しいクラスや友人との出会いがあまりうまくいかず、不適応感をもった生徒が少し息切れした状態になってしまふことが多いからです。携帯電話も電池が切れてくると充電が必要なように、生徒も充電が必要なこともあります。そんな生徒の気分を教室でリフレッシュするためにも、グループエンカウンターを利用してください。「今日はみんなと関わって楽しかった」「みんなと話ができてよかった」「心があったかくなった」「友達の意外な面を見ることができた」と、生徒や先生方が思うような時間をほんの少しだけつくってあげてください。

エンカウンターとは「エクササイズを介して人と人とのつながりをつくり、そこから自己発見・他者発見、人生発見を促進する、教育的色彩の強い援助方法」と定義され、目的は“心と心のふれあい”であり、次の6つのうちのいずれかを体験することです。

自分の本音を知る

自分の本音を表現する

自分の本音を主張する

他者の本音を受け入れる

他者の行動の一貫性を信ずる

他者とのかかわりをもつ

教育現場で人間関係づくりに利用できるものとしては、構成的グループエンカウンターがあります。構成的とは、グループの人数や時間の構成、テーマやエクササイズの内容・実施手順の構成が、教師によってできることにあります。教師が必要に応じて助言や説明などで介入できるため、生徒の不安や混乱、劣等感や罪障感を減らしたり、行動のヒントを与えたりすることができます。そして実施されたエクササイズの中で、「自己開示」や他者からの「フィードバック」を受けるため、対人関係の信頼感が成長し、受容的な態度が増し、ありのままの自分でよいと思えるようになります。

中学校では、生徒の3年間の身体的・心理的成長過程を踏まえた上で、グループエンカウンターのエクササイズを選択・構成・実施することを提唱します。

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 1年生：「動的」なエクササイズ     | → 不安感や孤立感を軽減し、グループコンセンサスを高める。<br>ゲームや遊びの中から、感情表現や信頼感を引き出し、高める。<br>具体例：砂漠で遭難、避難袋会議、第一印象ゲーム、スキグル描画 |
| 2年生：「静的」なエクササイズ     | → 心を開いて取り組み、自己や他者への気づきを誘発する。<br>自己受容・他者受容を高め、人間関係を構築する。<br>具体例：生協の白石さんゲーム、コラージュ、私の取り扱い説明書        |
| 3年生：「ガイダンス」的なエクササイズ | → 将来の夢や目標、自分の進路を自ら切り拓く意欲を高める。<br>人間関係を総合的に高める。<br>具体例：私の人生ゲーム、住宅問題、成功の方程式、自分の四字熟語                |
- ※ 実践事例等もいくつかあります。よろしければご活用ください。

～ 今年度、教室でグループエンカウンターに取り組みましたものを紹介しておきます。～

### ○グループコンセンサスを高める「砂漠で遭難したらどうする？」（1年生）

飛行機事故に遭い、砂漠で遭難したケースについて、生き残るために必要なものをグループで話し合わせる。自分の考えを述べたり他人の考えを受け入れたりすることで、グループコンセンサスを高めようとするもの。互いに意見を出し合い、みんなで考えた方がよりよい結論に達する可能性が高くなることに気づかせる。物を選ぶエクササイズなので、あまり悩むことなく抵抗なく、授業時間内に取り組める。模範解答があるので、それを発表すると大いに盛り上がる。



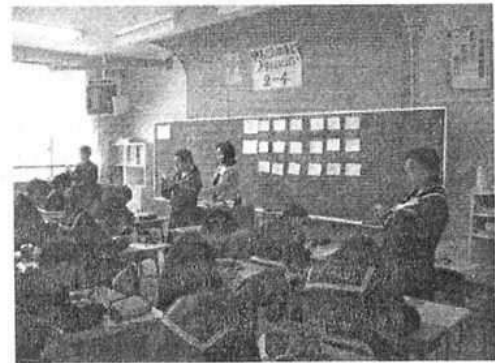
### ○仲間づくりを支援する対人関係ゲーム「新聞紙タワー」（1年生）

集団と折り合いがつかない人や集団に馴染めない人の仲間づくりを支援したりする問題解決型の方法。5～6人のグループを組み、1人に新聞紙1ページ分を配り、のりやはさみなどを一切使わずに制限時間内で自立する新聞紙タワーを協力して作り、その高さを他のグループと競うゲーム。一人ずつアイデアを出し合うこと、互いの考えの良さを見つけることで折り合いをつけていく。人とゲームの楽しさを分かち合うことで、集団活動がおもしろいと感じられるように計画する。



### ○ソーシャルスキル・トレーニングの要素を取り入れた「テレパシーゲーム」（2年生）

テレパシーの発信者と受信側に分かれ、制限時間内に発信者の説明通りに簡単な図形が描けたかどうかを両者の協力で競う単純なゲーム。授業時間内で発信者と受信側の両方を行うようにする。教師のねらいとすれば、発信者よりも受信側の傾聴の姿勢を訓練する目的の方が強い。「他人の話をまるごと聞き、伝えたいことを理解しようとする」ためには、両者の視線やうなずきの工夫が必要であることを理解させる。



紹介したこの3つ以外にも、「バースデーライン」「ひたすらじゃんけん」など、意外と簡単に取り組めるエクササイズの実施もありました。グループエンカウンターは、欲を言えばひと月に1回、定期的に取り組むことで効果は絶大なものになります。さらに学校行事や学年行事、総合的な学習の時間、特別活動、生徒会活動、部活動と相まって、より効果的に取り組まれることが望めます。まず先生方が「○○○○を目的で」とか「□□□□を改善するために」とか「△△さんの心を動かしたい」など、学級や生徒の実態を考えてみてください（これをアセスメントという）。そのアセスメントに合わせて、必要なエクササイズの計画・実践を紹介できるようにしたいと思います。グループエンカウンターの実践は思ったよりも容易ではありませんが、生徒があまり心のバリアをはらぬ時期に少しずつ取り入れていただき、先生方も生徒と一緒に楽しんでいただければ、さらに効果はあがります。ぜひトライしてみてください。

教育相談担当：カウンセリング指導員（白井 修之）